

西東京市 図書館だより

平成14年(2002年)3月26日

第5号

中央図書館 西東京市南町5-6-11 (0424)65-0823	谷戸図書館 西東京市谷戸町1-17-2 (0424)21-4545
下保谷図書館 西東京市下保谷4-3-18 (0424)21-3060	柳沢図書館 西東京市柳沢1-15-1 (0424)64-8240
芝久保図書館 西東京市芝久保町5-4-48 (0424)65-9825	ひばりが丘図書館 西東京市ひばりが丘1-2-1 (0424)24-0264

編集・発行：西東京市図書館

もうお読みになりましたか

平成13年度よく読まれた本

一般書

宮部みゆきからイスラムまで

今年度の傾向としては、ページ数もある充実した内容の本が話題になりました。

『模倣犯』上下 宮部みゆき著は上巻が721P、下巻が701Pという堂々たる長編作です。図書館には全館で45セットありますが、現在700回以上貸し出されています。宮部みゆきの作品は他にも『理由』『ドリームバスター』『ほんくら』『R・P・G』など。すべて良く読まれていて本棚になかなか並んでいることがあります。昨年の11月に出版された『ドリームバスター』は予約が集中しています。宮部作品は現代の犯罪をするべく描写する『模倣犯』『理由』や、同心が活躍する時代物『ほんくら』また、少年がいきいきと活躍するSF『ドリームバスター』など。作品の舞台が多彩なところが魅力です。現代もつと輝いているストーリーテラーの一人と言えるでしょう。

記憶に生々しい御巣鷹山のジャンボ機墜落事故を盛り込んで航空会社の腐敗を描く『沈まぬ太陽』全

5巻 山崎豊子著。大正、昭和、平成にわたり佐藤紅緑、サトウハチロー、佐藤愛子と脈々と続く佐藤家の歴史を描き第48回菊池寛賞受賞作『血脈』全3巻 佐藤愛子著。

どちらも、中高年の方を中心に大変よく読まれました。面白いことに何巻かに分かれていたものは、かならずと言っていいほど終わりの巻ほど貸し出しが少ないことです。なかなか読み通すことは大変です。たとえば、『大菩薩峠』全12巻 中里介山著は、1巻目29回、12巻目9回の貸し出しになっています。

文芸書では、他に『天国への階段』上下 白川道著、『命』『魂』『生』三部作 柳美里著、吉川英治文学新人賞『フラナリア』山本文緒著、直木賞『あかね空』山本一力著、『肩こしの恋人』唯川恵著など受賞作が人気です。

また、常に読まれている作家として内田康夫の『浅見光彦シリーズ』、平岩弓枝の『御宿かわせみシリーズ』などが健闘しています。

ノンフィクションの分野では平成12年の出版ながら、『金持ち父さん貧乏父さん』ロバート・キヨサキ著、『話を聞かない男、地図が読めない女』アラン・ピーズ著が引き続き読まれ

ています。第2作としての『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』『言葉でわかる「話を聞かない男、地図を読めない女」のすれ違い』もあります。

平成11年に話題となった『日本語練習帳』大野晋著から、平成12年出版の『声に出して読みたい日本語』斎藤孝著のように、日本語のブームも続いています。

なんといっても、関連書が多く出版され図書館でも読まれた本は、2001年9月11日アメリカ同時多発テロ関係ではないでしょうか。『タリバン』『イスラム』『テロ』『アフガニスタン』に関した本が再販も含め出版されました。

今現在、その影響下にある話題の本が、世界63億人の人を、もしも100人の村に縮めるとどうなるかと言う、『世界がもし100人の村だったら』池田香代子再話です。

また、学術的にまとめたものが『岩波イスラーム辞典』ではないでしょうか。

図書館にある本は常に社会の反映です。図書館をどうぞご利用ください。

児童書

ファンタジー大人気!

今年度の話題となった児童書といえばファンタジー系の本が、まず挙